

図書館だより



No.185

2013(平成 25 年)3 月 15 日発行

編集・発行 福島県立図書館

〒960-8003 福島市森合字西養山 1 番地

Tel 024-535-3218

Fax 024-536-4787

<http://www.library.fks.ed.jp/>



春！新しいことを始めてみよう！

入学、卒業、入社、退職、転勤、引っ越し……春は、出会いと別れの季節です。慣れ親しんだ環境から変わってしまうのは少し寂しいですが、新しい環境で心機一転、学業、仕事、趣味などに打ち込むには絶好のチャンスです。

県立図書館では、新たな生活を始めるために必要な資料をたくさん取りそろえています。もし新生活でお困りのことがあれば、気軽に図書館にご相談ください！

県立図書館では様々なイベントを開催して、皆さんの来館をお待ちしています！



県立図書館 春のイベント情報

「子どものための科学読みもの展 ～みる・かんがえる・たしかめる～」

県立図書館では『読書と科学のコラボ事業』を展開して、子どもたちの「科学の芽（目）」を育てています。

そこで、今回の展示では“科学読みもの”を「驚き・感動」「観察」「体験」「探求」の4テーマに分け、科学読みもの多様さや面白さを紹介しています。

期間：平成 25 年 3 月 8 日(金)～6 月 5 日(水)

場所：図書館展示コーナー



春のロビー展示

『福島市こでらんに博 冠事業
「信夫山の史跡写真パネル展」』

期間：平成 25 年 4 月 5 日(金)～
平成 25 年 5 月 1 日(水)

『字游字材(蘇る古代文字)』

期間：平成 25 年 5 月 3 日(金)～
平成 25 年 6 月 5 日(水)

場所：図書館
ロビー展示コーナー



アナウンサーによる はるの朗読会(仮称)

演者：「原國雄とその仲間たち」

元 FTV アナウンサーの原國雄氏を中心としたアナウンサーグループによる朗読会を開催します。

開演日：
平成 25 年 4 月 21 日(日)
午前＝子ども向け朗読会
午後＝おとな向け朗読会



「忘れない。 ～東日本大震災から 2 年～」

●『忘れない。
東日本大震災と救命・救護ルート確保、復旧への記録展』

期間：平成 25 年 2 月 23 日(土)～3 月 24 日(日)
場所：図書館エントランスホール・公開図書室

●ふくしまを知る講座
『忘れない。～東日本大震災から 2 年～』

講師：佐藤浩治氏(福島河川国道事務所
吾妻山山系砂防出張所 所長)
日時：平成 25 年 3 月 16 日(土) 14:00～
場所：図書館公開図書室・視聴覚室



新着案内

各分野の担当者が選んだ、お勧めの新着資料をご紹介します。

人文

『図解!! やりかた大百科 役にたつ(かもしれない)438の豆知識。』

デレク・ファーガストローム／著
パイインターナショナル 2011.9 049/㍻119
タイトルに偽りはありません。全部で438の「やりかた」が、オールカラーの丁寧なイラスト入りで紹介されています。それでも、なぜか実用本と呼ぶのがためられる不思議な本。包丁のとぎ方から、サメの攻撃のかわし方まで。ときに感心し、ときに苦笑い、そんな時間を過ごしたい方におすすめします。

『もののみごと 江戸の粋を継ぐ職人たちの、確かな手わざと名デザイン。』 田中 敦子／文
講談社 2012.10 750.2136/㍻12X

黄楊櫛、足袋、引手金具、曲物等々。少し昔の暮らしの中では身近にあった道具の数々。「過去じゃなくて、今いかに仕事をきちんとするか」「伝統とはつくり方ではなく、ものに対する姿勢」という職人さんたちの心意気から生まれる、「もののみごと」な作品を堪能してください。大量生産の道具では味わえない魅力に気付くはずです。

社会・自然

『ヴィジュアル版 国家と国民の歴史』

ピーター・ファタード／編 原書房
2012.11 209/㍻12Y

歴史とその記録が絶えず重要であり続けてきた中国。先住諸民族の「伝統」と、イギリスの植民地支配という「近代」の影響を受けるガーナ…。

世界28カ国それぞれの歴史を、豊富な図版とともにまとめた本です。執筆した28人の歴史家は、全員が担当国の出身者。その国の歴史家は、自分たちの歴史をどう理解し、どう理解されたいと願っているのか。知っているようで新鮮な、各国の新しい姿が見えてきます。

『エンジェルフライト 国際霊柩送還士』

佐々 涼子／著 集英社
2012.11 673.93/㍻12Y/

「国際霊柩送還」—外国で亡くなった方の遺体や遺骨を遺族の元へ送り届けること。この国際霊柩送還を確立させたのは、日本初の専門会社、エアハース・インターナショナルです。故人と遺族のために奔走し、全身全霊をかけて仕事に取り組む人々、彼らの仕事に触れた遺族の記録です。

「理屈では割り切れない」死への向き合い方、そして弔いの意味とは。「正解はない」、けれど最善を尽くそうとする送還士たちは、今この瞬間も故人と遺族のために働いているでしょう。

第10回開高健ノンフィクション賞受賞作。

雑誌・新聞

東日本大震災から2年が経ちました。関連する最新号の雑誌記事を紹介합니다。

- * 「東日本大震災復興の道筋と今後の日本社会」 Z/061/G1 『学術の動向』 2013年2月号
- * 「東日本大震災における都市ガスの被害・復旧状況と地震対策の課題」 Z/317.79/Y 『そんぽ予防時報』 2013年冬号
- * 「第25回司法シンポジウム 震災復興と司法の役割」 Z/327.14/J1 『自由と正義』 2013年1月号
- * 「復興と地域社会 東日本大震災から2年」 Z/369.05/G1 『月刊福祉』 2013年3月号
- * 「あの日からの福島と教育」 Z/370.5/K20 『教育』 2013年3月号
- * 「放射性降下物の農畜水産物等への影響」 Z/464/K9 『化学と生物』 2013年2月号
- * 「東日本大震災から二年 営農や販売に奮闘する被災地」 Z/610.5/C2 『地上』 2013年3月号
- * 「知・技術の伝承 震災後の知識とコミュニケーション」 Z/519/K40 『環境情報科学』 41巻3号
- * 「震災ビッグデータをどう生かすか—震災情報の今後を展望する—」 Z/699/N1 『放送研究と調査』 2013年1月号

地域

『へその曲げ方 西郷頼母会津藩始末』

ジェームス三木／著 学研パブリッシング
2012.12 L913.6/J5/1

藩家老を代々務めてきた会津藩の名門である西郷家の長・頼母。その苛烈で頑固な性格ゆえにたびたび藩重鎮と議論を戦わせ、敵をつくることすら厭わなかった頼母が、2度の謹慎処分を受けながらも家老に復帰し、藩主・松平容保の信頼を受けたのはなぜだったのでしょうか。

幕末の混乱期に誇り高く生きた会津藩士の活躍を、容保と頼母の固く結ばれた主従関係から描いた作品です。

『東日本大震災記録写真集 あの日のふくしま次代へつなぐメッセージ』

福島県広報課／[編] 福島県広報課
2012.12 LS369.31/F4/4

平成23年3月11日から2年が経過しました。

思い出すのも辛い記憶ですが、大地震・大津波・原発事故・風評被害の記憶は、後世に伝えるため、何一つ風化させてはならないものです。

福島県では、震災直後と復興の様子を写真に収めた本資料の発行のほか、歴史資料館の震災アーカイブ事業、そして県立図書館の「福島県復興ライブラリー」設置を通じ、震災の記憶を次代へつなぐための資料の作成・収集・保存や、震災関連情報の発信に取り組んでいます。